

2024年度供給計画のとりまとめにおける 年間EUE算定結果

2024年6月14日
電気事業連合会

資料 2

(kWh/kW・年)

	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
北海道	0.024	0.085	0.035	0.214	0.024	0.021	0.014	0.011	0.012	0.010
東北	0.001	0.004	0.104	0.002	0.029	0.027	0.010	0.008	0.009	0.008
東京	0.009	0.043	0.612	0.047	0.029	0.027	0.011	0.009	0.009	0.008
中部	0.001	0.017	0.022	0.010	0.006	0.006	0.003	0.005	0.006	0.006
北陸	0.009	0.000	0.004	0.004	0.004	0.004	0.002	0.003	0.003	0.004
関西	0.000	0.000	0.004	0.004	0.004	0.004	0.002	0.003	0.004	0.005
中国	0.000	0.000	0.004	0.004	0.004	0.004	0.002	0.003	0.004	0.005
四国	0.000	0.000	0.003	0.003	0.003	0.003	0.001	0.002	0.002	0.003
九州	0.002	0.039	0.803	0.701	0.726	0.567	0.240	0.234	0.213	0.193
9エリア計	0.005	0.024	0.303	0.093	0.085	0.068	0.029	0.028	0.027	0.025
沖縄	0.069	0.094	3.385	1.163	3.745	1.276	1.364	1.462	1.521	1.354

<容量市場・供給計画における目標停電量>

9エリア	0.033	0.033	0.028	0.027	0.016	0.016	0.015	0.015	0.015	0.015
沖縄	1.996	1.996	1.996	1.996	1.996	1.996	1.996	1.996	1.996	1.996

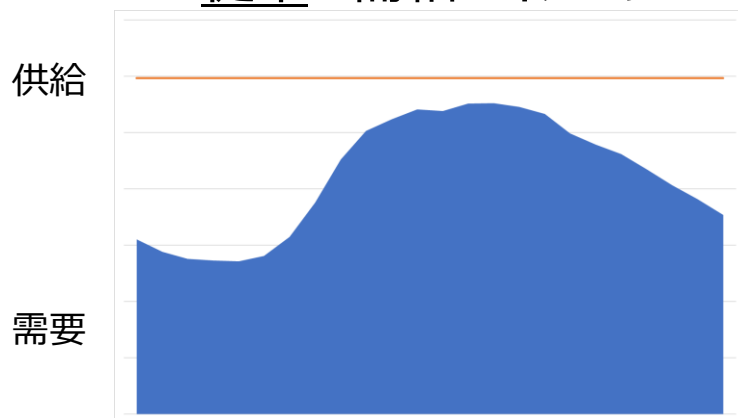
※年8760時間を対象とした各エリア需要1kWあたりのEUE（供給信頼度）
ハッチング箇所は、目標停電量を超過している年度・エリア

（出典）電力広域的運営推進機関2024年度年次報告書（2024年3月29日）

(参考) 年間EUEとは

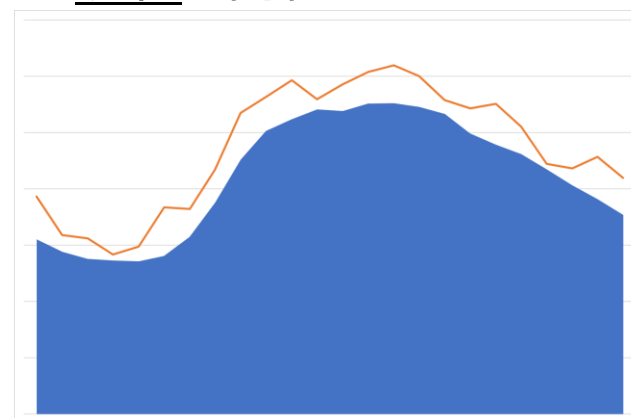
- 電源の多様化や再生可能エネルギーの大量導入の進展により、供給側の不確実性が高まり、**需給が最大となる断面での「予備率」だけで評価することが困難**
- 需給両面の不確実性を前提に、**停電が発生する量を確率論的に評価する年間EUEにより需給状況を評価し、追加オークションなど必要な需給対策を検討、実施**

従来の需給のイメージ



・供給側が火力・原子力など安定的に出力を出せる
電源中心
⇒主に需要にのみ不確実性
⇒需要最大断面の「予備率」で評価

現在の需給のイメージ



・供給側に再エネ（主に太陽光）の大量導入が進む
⇒需要だけでなく、供給にも不確実性
⇒需要最大断面が「予備率」の最小でない状況が頻発

需要変動や電源の計画外停止などが発生した場合に
停電が発生する量を確率論的に評価する「年間EUE（※）」での評価へ移行

※EUEとは：Expected Unserved Energyの略で、各エリア供給力、他のエリアからの連系線効果も考慮の上で、需要変動や計画外停止が発生した際の停電期待量